

理事長コラム

国文祭 障文祭 なら2017をふりかえって

こぶしの会15周年を祝う会

就労継続B型 ここに

新春の出来事3つ

就労継続B型 すたあと

ここすた旅行

Topix

居宅支援

かたつむり(短期入所)休止について

生活介護 こっから

10年ぶりの一泊旅行

相談支援事業

大阪寝屋川プレハブ監禁死事件の衝撃

～呉秀三「精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的觀察」発表から100年の「今」に～

マッケンジー・ソープ&国際絵画展のご報告

寄贈

ありがとうございました!

編集後記

Column

「やまとし うるわし おもしろし」 国文祭 障文祭 なら2017をふりかえって

社会福祉法人こぶしの会 理事長 藤井 正紀

昨年の9月1日から11月26日の約3カ月にわたって、「第32回国民文化祭・なら2017」と「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」が全国初の一体開催されました。

これまで国文祭は国の文化庁が、障文祭は厚生労働省が主催し全国の都道府県を順番にまわり開催されてきました。これまで大会は、国文祭と障文祭は同じ都道府県で開催されていましたが、障文祭は国文祭が終わってからの短期間の開催でした。この大会の開催地が奈良に決まった時点で、奈良県は「二つの大会を同時に開催する」と「全市町村での開催」を決め、国と協議して同時一体開催が実現しました。

そしてこの一体開催に向けて各界の代表者19人の実行委員会が作られ、私は障害者団体の代表として選ばれました。私としては、今回の国文祭と障文祭の企画や運営等について、障害者や障害者団体が参加しやすく、また気軽に文化や芸術に親しむことができることと、障害者の様々な文化活動を多くの人々に知ってもらえる機会にしたいと思って頑張りました。

そして普段参加する機会がない、3つのイベントにこぶしの会の仲間に参加してもらいました。

◆2016年4月19日

「芸術祭500日前キックオフイベント」

松田 嘉元さん・竹島 徹子さん

県庁の正面玄関前ホールで 松田さんと竹島さんの二人が除幕式を行い、芸術祭の幕開けを祝いました。

◆2017年9月2日 「開会式」 大仏殿前広場

小山富士夫さん

＜小山富士夫さんの感想文＞

第32回国民文化祭・なら17と第17回全国障害者芸

術・文化祭なら大会が、9月2日にオープニングし、19時にスタートしました。僕は藤井理事長から誘われて開会式に参加しました。午後3時に理事長と大仏前で待ち合わせをしていきました。

こんな大仏殿での文化祭の開会式に初めて連れてもらってうれしいでした。また、式の中で僕の好きな音楽のボレロの音楽がきけたことと、雅子妃殿下と皇太子殿下を見たのは初めてでした。それと、ががく（雅楽）を聞いたことや、天理大のすいそうがく（吹奏楽）が、すばらしいと思い、子どもたちの、のうがく（能楽）がほんとうにすばしかったです。ぼくはもっと音楽がすきになりそうです。

◆2017年11月26日 閉会式奈良県文化会館国際ホール

小嶋由香子さん

＜小嶋由香子さんの感想文＞

11月26日はとてもよかったです。藤井理事長と文化かいかで待ち合わせしていきました。

席は前の方でした。天理大学のダンスがすてきでした。和だいがよかったです。お金は払いませんでしたがここの入場料は高いと思いました。フィナーレよかったです。きれいでした。



こぶしの会15周年を祝う会

2018年3月3日(日)



3月3日(土)、仔鹿園さんのホールをお借りし、社会福祉法人こぶしの会の設立15周年を祝う集いを開催いたしました。今回は仲間、ご家族、職員、後援会役員さんの関係者のみで、和気あいあいとした雰囲気の中、みんなでこれまでの歩みを振り返りました。また15年間、昼食づくりとともに仲間を支えて来てくれた東テストバールさんが朝早くから準備していただいた軽食を食べながら親睦を深めました。

会場となった仔鹿園さんは、先日設立40周年を迎えられた私たちの大先輩です。こっからの仲間の大半が卒園生で、特によしもさんは一期生ということで当時のアルバムも見せていただき、参加したご家族も何十年ぶりに園を訪れて園長先生との再会を懐かしむ姿があちこちで見られました。

式典の後半は、仲間のステージで、作業所時代から歌唱指

導でお世話になっている西前先生の指揮のもとみんなの笑顔と元気があふれる歌声がホールに響き渡り、暮らしを支える拠点づくりという、新たな目標にみんなの気持ちがひとつになるような集いとなりました。

祝う会のあとは、全員でこっからに戻り、当法人の名前の由来でもある「こぶしの木」を植樹。15年前に設立を記念して植えた初代こぶしの木の隣に新しい仲間が増えました。

数十年後にまたみんなでここに集まり、ふたつの木を見上げながら、この日のことを思い出せたらいいなと思います。それまで色んな事があると思いますが、一緒に歩んでいきましょう。

この度の祝う会開催に際し、仔鹿園様をはじめご協力くださった皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。そしてこれからも、よろしくお願いいたします。

新春の出来事3つ

ここ最近恒例となっている、ここに・すたあと合同の年末年始行事。今回は初詣とうどん作り、吉本新喜劇観賞会です。

仕事初めの日の1月4日、全員ここにへ集合してから、初詣は仲間だけで行き先を考え、檀原神社へ行くことに決めました。車2台で出発したまでは良かったものの、目的地からかなり離れたところから大渋滞。この先もずっと渋滞が続いているとのことだったので、急遽行き先を変更して、石上神社へ。一時は初詣できないのでは?とヤキモキしましたが、石上神社でゆっくり参拝でき、ほっと一安心でした。

この日の午後からは、みんなでうどん作りに挑戦!粉を手でこねるところから始まり、それをビニール袋に入れて、さらに足で踏み踏み。汗をかくくらい力いっぱい踏みすぎて、袋が破れるハプニングも。一晩寝かせて、翌日に生地を伸ばして、切って、湯がいて。お好みのトッピングでお腹いっぱい食べました。味はもちろん絶品♡。

8日の祝日には、休日開所日として、吉本新喜劇のDVD観賞会を行いました。この日は、ここにの和室が劇場に変身!みんな吉本は大好きですが、みんなで見る吉本はまた違った楽しさもあり、初笑いには遅かったかもしれませんが、大いに笑って楽しい



ひと時を過ごしました。

新しい1年の始まり。今年もいい年になりますように。

(文責 新谷 和博)

ここすた旅行

毎年旅行は、「ここに」が日帰り旅行、「すたあと」は、きょうさんの全国大会への参加という形で、それぞれの企画で取り組んできました。

「ここすた仲間自治会」が発足し、休日開所やイベントは合同で楽しむことが増えてきたため、「旅行も一緒に行こう!」と初めて自治会で話し合いを持ちました。

一味違った旅行をということで、今年は、バスでかにツアーに行くことに。

旅行代理店から提案されたのは、「天橋立」か「鳥取砂丘」。仲間がアンケートを作り、投票した結果、鳥取砂丘に決定しました。

天橋立に行ったことがある仲間が多く、砂丘には初めてだからという理由でした。

朝8:00という早い時間でしたが、仲間13人、職員5人でバスに乗り、出発。

あたたかい晴天に恵まれましたが、鳥取に着くころには、ポツリポツリと雨が降り始めました。

到着すると、貸切部屋にカニ御膳!

カニ一杯、カニ鍋、焼きガニ、カニ刺し、カニすしがどどーんと並んだ豪華な昼食です。

それぞれ、スマホなどで写真をとったあとは、黙々と身を取り出していきます。



前の人に、汁が飛んだりしながら、悪戦苦闘して食べ続けます。くたくたになりながらもおいしく頂き、お土産を選びに行きました。

砂丘に行くころには、雨はあがっていましたが、ビュービュー吹く風の中、記念写真。

一路、奈良に帰りました。

この日の楽しみのために、仕事を頑張れたという仲間もあり、楽しみは心のふんばりにつながるのだなと感じられた合同旅行でした。

(文責 島 耕治)



かたつむり(短期入所)休止について



かたつむりは、平成23年より単独型の短期入所として事業を行ってまいりました。

短期入所としては珍しい一般的な住宅を活用した事業所で、1回あたり3～4人で宿泊を行ってまいりました。夜間一緒に過ごす事で交流を深める場として、なかまの方々からも需要が高く、ご家族にとってはレスパイトの資源として、これまでたくさんご利用いただけてきました。

今回、消防法改正により事業所に「スプリンクラー設置」が必須化され、かたつむりは賃貸契約上や予算上、スプリンクラー設置が出来ない事から事業所の休止を余儀なくされることになってしまいました。ただ、短期入所の需要自体はますます高まっており、グループホームと同様にこれからの地域生活の重要な資源です。法人では現在計画している新規グループホーム事業所において短期入所を併設し、これまで以上に安定的な短期入所事業として再開を目指しています。

事業所の休止に伴い、ご利用いただいていた皆様には大変ご迷惑をおかけします。一刻も早い事業所開設にむけて、準備にあたっていきたいと思います。

つきましては、ご関係者の皆様方に、改めて新規グループホーム開設に向けてのご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。
(文責 藤井 浩司)

Topix

1月



書初め大会

1年の始まりは恒例の書初め大会。今年も名作がたくさん生まれました



表彰式

2018年度の年賀状はYさんの作品が採用され、表彰状と金一封が手渡されました。

2月



施設外活動

2月はそれぞれの班がみんなで話し合っ
て外出に。遊びに行ったり、食へに行っ
たり。



職場体験実習

奈良東養護1年生の皆さんが今年もモッ
からに体験にやってきました。活動班の
先輩たちも交じって仕事を頑張りました。

3月



クリーンコミュニティ

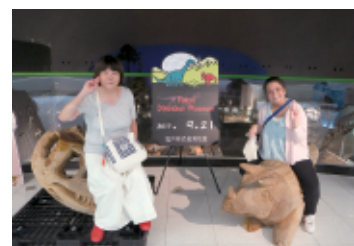
冬の間休止していた地域の方々との公園
清掃活動。3月から再開です。



市役所販売

奈良市役所の玄関ホールで定期的に行
われる施設商品の販売会。今回もたく
さんの方々に買っていただきました。

10年ぶりの一泊旅行



2017年9月21日～22日の二日間、こっからでは約10年ぶりに全体での一泊旅行に行ってきました。行き先は仲間旅行委員のプレゼンテーションから福井方面に決まりました。

恐竜博物館では入って最初に出てくる迫力のある動く大きな恐竜にびっくりして近づけない仲間もいました。館内をゆっくり見学してお土産コーナーへ。買い物はやっぱり楽しい。あれも、これもと1日目なのに博物館から出た時には両手いっぱいのお土産を抱えていました。

久しぶりの泊り旅行でみんなが楽しみにしていたのはやっぱり宴会。豪華な夕食では次から次に出てくる料理に大満足してからの仲間旅行委員が考えたビンゴゲーム。商品も用意され

て大盛り上がりでした。

二日は水族館と芝政ワールドに分かれて楽しみました。水族館ではカメの餌やりが仲間に大人気でした。大きな口を開けて食べにくるカメにみんなは大興奮しながら楽しんでました。

ここ最近では日帰り旅行が多く宿泊旅行がありませんでした。日中の仕事や活動とは違い、一緒にお風呂に入り布団で寝ることで仲間同士や職員との距離感がより近く感じられる時を過ごせました。今回の旅行は総勢70名近くでの旅行となりました。普段は各班に分かれての少人数での活動が多いですが、こっからが一つになって過ごせた二日間はとても良い思い出となりました。

大阪寝屋川プレハブ監禁死事件の衝撃

～呉秀三「精神病患者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察」発表から100年の「今」に～

「精神疾患があり、暴れることがあったから閉じ込めた。」「周囲に知られたくなかった。」

暖房なし、2畳のプレハブで、15年間、家族に監禁された女性(33歳)が昨年12月凍死。死亡時体重は19キロしかありませんでした。市役所に相談は一度もなく障害者手帳は発行されていませんでした。

精神疾患は、完治できなくてもコントロールして実質的に症状を消すことのできる病気です。彼女の絶望と痛苦を思うと、どこか介入はできなかったのか、今だ蔓延する偏見と無知がこの結果を生み出したことを思うのです。

「呉秀三」をご存知でしょうか。1901年、東京帝国大教授だった呉秀三は、留学帰国後、日本の精神障害者のひどい状況を目の当たりにして、私的監置(座敷牢)の実態を調査し、貧しい精神病患者への援助や啓蒙活動を行い、精神医療の黎明期に、拘束具の廃止などを果敢に

取り組みました。あれから100年。法制度も大きく前進しているのに、監視カメラのついた現代の「座敷牢」で命を落とす悲惨な現実には啞然とします。呉が残した言葉…「我が国の精神病患者はこの病を受けたものの不幸の他に、この国に生まれたる不幸を重ねるものというべし」…を、噛みしめています。

こぶしの会相談支援センターも地域から持ちこまれる相談が全体の1/3を占めるようになりました。地域には支援に結びついていない人がまだまだたくさんいます。体制を強化して、本当の意味で地域の社会資源の入り口としての役目を果たさねばと感じています。

*この春、きょうされんが結成40周年を記念して、ドキュメンタリー映画「夜明け前―呉秀三と無名の精神障害者の100年」を製作しました。また、奈良でも上映運動を取り組みます。

(文責 小針康子)

マッケンジー・ソープ&国際絵画展のご報告

2018年2月24日(土)～26日(月)



春 新 聞 平成30年(2018年) 2月24日 土曜日 第2社会 2

夢持って人生変える

きょうからイオンモール大和郡山で絵画展

国際的に活躍する海外出身の画家マッケンジー・ソープさんが、自身のチャリティ・アート展を開催して来日。23日には奈良市雑司町の東大寺を訪れた。絵画展については「人は夢を持つ、その夢を達成し、人生を変えることができる。絵画展を通じて、夢を持つことが大切だ」と話した。

ソープさんが訪れたのは、平成29年12月、同寺で開かれた「大仏殿を見学するソープさん」の23日、奈良市雑司町の東大寺

大仏から大きな感動

真田幸村

ギャラリートーク、サイン会も



■900人を超える来場で大成功!!

2月24日(土)から26日(月)までの3日間、イオンモール大和郡山2階イオンホールを会場に開催しました、生活支援施設建設チャリティ企画『マッケンジー・ソープ&国際絵画展』は、来場者900名、関係スタッフやボランティアが延べ80名の参加で盛況のうちに終えることができました。

■ソープさんの笑顔に励まされました!!

2011年の当法人主催の原画展以来、2回目の奈良となったソープ画伯。今回も前日から東大寺を見学され、夜には歓迎レセプションでギャラリートークとサイン会を行っていただきました。24日のサイン会には、ソープさんのお話を聞こうとたくさんの方にお越しいただきました。ディスレクシア(難読症)という障害を抱え周囲の無理解に苦しみながらも絵を描くことだけを心の支えに乗り越えてこられた半生と、作品ひとつひとつに込められた思い、特に子どもたちへの愛情とどんな障害があっても可能性を信じて支え続けてほしいという周りの大人への熱いメッセージは、聞く人たちの心に響くものでした。

■つながりに感謝!!

また今回の絵画展では、奈良LD親の会「パンジー」、障がい者応援くらぶ「なないろはあと」、マオズファクトリーの方々にも企画にご参加いただきました。準備期間が短いなか、3日間来場者が途切れることなく会場が盛り上がりましたのも、みなさんのつながりや取り組みのおかげと感謝申し上げます。また無認可共同作業所時代から活動の節目ごとにイベントをサポートしてくださっている「ほるぶA&I」さんには今回も大変お世話になりました。

■誰もが安心して暮らせる地域づくりをめざして!!

「障害の重い人たちの地域生活を支え続けていける施設をつくる」ための資金づくりと、この取り組みの意味や意義を多くの方々に知っていただくという目的をもって開催したチャリティ絵画展でした。その趣旨にご理解とご賛同をいただき、たくさんのご寄付とカンパのご協力を頂くことができました。この絵画展を契機として、これからみんなの夢の実現をめざし頑張っていきます。引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。(文責 古木一夫)

ありがとう ございました!

寄 贈

♥カーブス様



今回もカーブス様よりフードドライブの取り組みで市内の各店舗の会員の皆様からご提供いただいた食料品や食材をこぶしの会にも寄贈していただけることになりました。

これらは、2か所のグループホームでの食材として、またここにやこっからの食品製造班や活動班の調理体験やお菓子作りの材料として大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

♥近畿セキスイ労働組合様



近畿セキスイ労働組合の皆様から、ご寄付の申し出をいただきました。こっから設立以降、2年ごとにご寄付をいただき今回で5回目となります。15年使用していた販売コーナーのレジが使えなくなっていたので、新しいものに換えることができました。その他、デジカメとパン工房で必要な器具を購入させていただきました。大切に活用させていただきます。ありがとうございました。

障害のある人たちの地域生活を支える施設建設を応援してください

ご寄付・募金のご協力をよろしくお願いいたします。

●こぶしの会のめざすもの

この度、社会福祉法人こぶしの会では、障害のある人たちの地域生活を総合的に支える拠点施設の建設をめざすことになりました。障害が重くても、高齢になっても「一人で暮らしたい、仲間と暮らしたい、家族と暮らしたい」といった、「好きな人と好きな場所で自ら選べる暮らし」を創り出すための生活支援施設の建設とそれを拠点とした地域ネットワークの構築をめざします。(詳しくは同封の建設募金パンフをご参照ください)。

●建設募金にご協力ください!!

今回の施設建設にあたって、国からの助成金はなく、建築予定費15,000万円は全て借入金を含む自己資金で賄うことになります。ひとりでも多くの方にこの取り組みを知っていただき、仲間や家族、支える人たちの夢や願いを実現するために、ご寄付・募金をお願いする次第です(目標2,000万円)。会社やお店などでのカンパ箱や募金パンフレットの設置などと合わせ、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集後記

「この子を残して死ぬわけにはいかない。もしできることなら、一日だけこの子より長生きしたい、それが私の願いです。」学生の時、ボランティア先の障害児施設で出会ったお母さんの言葉が今でも忘れられません。日本中がバブル景気で浮かっていた頃の話です。あれから障害福祉制度は大きく変遷し、権利として学んだ社会福祉はサービスに変わりました。障害のある人たちを支える事業所は爆発的に増え、バリアフリーが当たり前の世の中になり、家族の支えだけに頼らなくてもよい時代に少しずつ変化してきたはずですが、でも30数年前に聞いたあの

お母さんの言葉は決して過去のものではない現実が今もあります。1988年にこぶしの会の運動がスタートして以来、たくさんの方々に支えられながら今日まで来ることができました。そしてご家族も仲間もその月日と同じように年齢を重ねてきました。地域生活を支える拠点施設の建設は、ある意味で私たちのひとつの節目ともいえる大きな挑戦となります。障害があってもなくても誰もが安心して暮らせる社会をめざして。この新しい事業が、その目標にさらに近づく動力となるように。

(古木 一夫)

こちらも
ご覧下さい

<http://kokkara.jp/>
Facebookはじめました。

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。